2020 年
（令和 2 年）
秋号
Vol. 5

枚方市議会議員

奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて
生きていける社会をつくる

●奥野みかの活動報告（トピックス）
～みんなが安心して暮らせるまちのために～
●奥野みかの議会質問
～9 月定例月議会
ウィズ・コロナ社会に
おける新たな課題を
問う～
●奥野みかの一般質問

奥野みかの活動報告（トピックス）　～みんなが安心して暮らせるまちのために～

SDGsや人権の視点に立った感染症対策を

新型コロナウイルス感染症に対する不安や恐怖から偏見・差別が生まれ、感染者や医療従事者等に対する差別事象が起こっています。「自粛警察」現象などが社会の分断を拡大させているなか、市民の命と生活を守る政治の責任がより高まっているのではないでしょうか。

9 月 7 日、本会議終了後、連合市民の会で、伏見市長・奈良教育長に、「誰一人取り残さない」SDGs や人権の視点に立った新型コロナウイルス関連対策の推進を求める要望書を提出しました。

市民の安心を支えるひらかた病院に期待

9 月 24 日に開催された病院事業運営審議委員会で、市立ひらかた病院は第 2 種感染症指定医療機関として、今年 1～8 月の間、陽性患者 101 人、疑似症患者 113 人の計 214 人の入院患者を受け入れ、感染症対応に努めてきたこと、一方で前年同期間に比べ 3.6 億円の減収となった経営の現状についての報告がありました。コロナ対応と経営改善に取り組みつつ、市民がより適切な医療を受けられるよう、引き続き、かかりつけ医との連携を図り、地域医療支援病院の承認など、地域の中核病院としての使命を果たしていく取り組みをお願いします。

奥野みかの議会質問　～9 月定例月議会　ウィズ・コロナ社会における新たな課題を問う～

多額の税金の投入が安心につながっているのか

9 月定例月議会は 9 月 7 日～10 月 12 日の 36 日間の長丁場でした。市は令和 2 年度になってから、新型コロナウイルス関連で約 478 億円の予算を増額したこと等により、一般会計予算は、当初の 1,508 億円から約 2,008 億円に膨れ上がりました。これは 1 人 10 万円給付された国の特別定額給付金事業費 402 億円を含みますし、多くの事業に国の財源が充てられる予定です。しかし、市負担増額分も約 53 億円と多額です。

一方、国が実施したコロナ禍で困っている事業者の皆さんへの持続化給付金は、迅速な審査・速やかな給付という「スピード感」を打ち出し、実施事務を民間に丸投げした結果、数多くの不正受給事例が発生しています。また、休業支援金は支給実績が予算額の 3%と低調です。巨額の税金を使うのに、事業の実施方法や内容に多くの問題があるのは、国だけに限りません。

コロナ対策実施店舗支援を目的に全市民に 3,000 円分のクーポン券を無償配布する事業の予算は約 16 億円です。その他、事業継続固定費支援金、デリバリー支援事業、ひらかたポイント付の高齢者アンケート調査等々、新型コロナとの共存の時代の皆さんの暮らしの安心に本当につながっているでしょうか。

また、従来の発想や構想を見直すこともなく、状況判断も財政状況判断も説明せずにどんどん具体化だけを進めようとする枚方市駅周辺再整備のための大型開発。コロナ禍で経営が厳しいひらかた病院の財政をさらに悪化させる行財政改革の取り組み等、今の市政運営には数多くの疑問があります。そこで、8 項目の課題を質問するために一般質問に臨みました。（※裏面に一般質問の質疑のポイントを掲載）

将来に対する大きなリスクを背負った本市財政

黒字を計上した令和元年度決算ですが、年度末時点で新型コロナウイルス感染症の影響が出始めていたことから、財源としての財政調整基金の残高を最大限確保するために、実は予算編成時に予定していた各種基金の運用や充実を見送った結果でした。市債残高は、前年度比 15 億円増の 1,057 億円。本市財政はすでに大きなダメージを受けており、将来リスクがあると決算特別委員会では指摘しました。（※詳細はホームページ等に掲載）

奥野みか　ホームページ・フェイスブック
～皆さまのご意見・ご要望もお聞かせください～
https://okuno-mika.com
https://www.facebook.com/mika.okuno.338

【発行責任者】 奥野みか／枚方市東田宮 1 丁目 15 番 6-807 号　【TEL】090-5360-6633 【FAX】072-846-4656
【E-mail】hirakata@okuno-mika.com

奥野 みか
９月定例月議会 一般質問

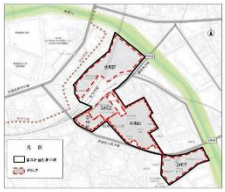
ポイント／分散避難を受け入れるため、危機管理施策として、自治会館の耐震性能の確保を

感染症対策を踏まえると指定避難所だけに頼る受入れでは不充分。地域の集会所等を避難所としていくためには、施設の建替えや耐震化、バリアフリー化などの支援策を用意した上で、地域に避難所として位置付けていただくための働きかけを行うのがあるべき手順。危機管理施策として、一刻も早い具体化を要望しました。

質問／新耐震基準に対応していない築40年を超える地域の集会所が約3割。ハード面の整備促進のための支援の考え方は？
答弁（市長公室長）／避難所としての地域の集会所の位置づけが促進されるよう、自治会館建設助成制度の見直しの検討を進めていく。**（←早くね！）**

ポイント／枚方市駅周辺再整備について、コロナショックで社会・経済の状況が大きく変化しているなか、あえて歴史的な巨大事業に着手するのか

的確な状況判断・財政判断を行い、市民とともに考える姿勢を持ち、枚方の未来に禍根を残す引き金は決して引かないよう要望しました。



質問／新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に着手した③街区の再開発事業。経済悪化の中、本当に大丈夫なのか。予定していた市の負担は増えないのか？
答弁（市駅周辺等まち活性化部長）／③街区の再開発事業は、市駅周辺再整備事業全体のトリガー（引き金）となる事業で、まち全体の魅力を高められる大変重要な取り組み。市負担額約75億円を維持しながら、再開発補助金の増額や、バンケット付きホテル整備の実現に向けた支援等を行う。**（←見通しの答えはなし）**

質問／「新庁舎は⑤街区での配置を基本」との答弁だが、用地の取得に係る費用はどのように確保するのか？
答弁（市駅周辺等まち活性化部長）／④⑤街区の土地区画整理事業に伴う換地処分による取得を考えている。**（←府と市で土地を交換し、府が今の市役所周辺の用地を民間に売却することになるのか!?）**

質問／コロナショックのなか、開発事業やハコモノ事業の凍結や実施時期の見直しを行う首長も少なくない。市長の状況認識や状況判断は？
答弁（伏見市長）／市駅周辺再整備は、コロナ禍に伴う景気後退という厳しい社会状況の中でも、枚方の未来を担うまちづくりの最重要課題であることから着実に進める考え。**（←何の認識も語らず「やる」とだけ答弁）**

ポイント／15.6 億円のコロナ対策実施店舗応援事業の業務執行体制を問う

質問／市の次長がトップの実行委員会に事務執行を委ねるのは問題ではないか？
答弁（観光にぎわい部長）／市職員が実行委員長を担うことは、コンプライアンスの観点から問題はないと判断。実行委員会の事務執行は、適宜、部内の複数の管理職がチェック・監査を行う。**（←内部統制の形骸化！）**

ポイント／採用時の年齢制限を撤廃するだけでは、何のために雇用したのか問われかねない

就職氷河期の方の雇用や民間企業等での勤務経験のある方の雇用の可能性もある職員採用試験における年齢制限撤廃を打ち出すのであれば、上限額がある初任給格付けのあり方や採用後の処遇体系なども含めた抜本的な改革に早急に取り組むべきと指摘しました。

ポイント／枚方市文化国際財団の解散まで半年。財団が担ってきた役割をどのように引継ぐのか

今年４月に策定した指針に基づき、「やさしい日本語」を各職場の窓口での標準とする取り組みも推進されるとのことですが、国際化施策の推進において、枚方市文化国際財団が担ってきた役割を適切に引継ぎ、誰一人取り残さないという観点から、外国人市民に対する新たな課題への取り組みも展開するよう要望しました。

ポイント／すぐにでも取りかかれる市有資産の活用を放置するのも無駄遣い

質問／幼児療育園跡地の活用はどうなるのか？
答弁（観光にぎわい部長）／公共施設マネジメント推進委員会で検討し、観光交流施設として活用する方向で検討を進めている。**（←使用しなくなった施設を「空き家」のままで放置するもの無駄遣い！）**

ポイント／子どもや家庭をめぐる問題が複雑・多様化するなか、子どもの最善の利益を尊重し、誰一人取り残さないための体制整備が求められている

質問／児童相談所設置に関する市の考え方は？
答弁（子育ち支援監）／設置の有無を含めて検討中。
（←子どもの生命を守る大切な機関。しっかり検討を！）

ポイント／子どもたちと向き合う職員の安全・安心が子どもたちの安全で豊かな放課後につながる

子どもにとって豊かな放課後環境の整備のためには、職員の処遇改善を図り、人材を確保することが重要。放課後キッズクラブ事業の委託など、新たな事業の実施に向けては、現場職員の意見をしっかりと聞きながら、焦ることなく丁寧に進めていただきたいと要望しました。